

参考文献 応力測定技術研究会編 応力測定法。日本非破壊検査協会編 応力頻度測定に関するシンポジウム(講演予稿)1958。多田美朝述 応力ひん度計(材料試験第5巻)1956。中村和雄述 繰返しひずみ感度計(材料試験第7巻)1958。林成行述 抵抗線歪計を使用する応力頻度計の試作について(技研中間報告57—123)1957 磁気テープ記録による応力頻度計の試作(技研速報60—203)1960。(伊藤文人)

おうりょくふしょく 応力腐食 (英)stress corrosion 内的あるいは外的な静引張り応力により、金属の腐食が促進される現象をいう。特に応力集中により局部腐食が進行する場合に顕著であり、結果として金属の割れ(応力腐食割れ)を生ずる。実際的には冷間加工などのための内部残留応力の影響が重要な問題で、ボイラーのアルカリぜい(脆)化、黄銅の時期割れ(season crack)などは、この種の原因によるものと考えられている。鉄鋼・不しゅう(錆)鋼・銅合金・アルミ合金などに認められ、金属の内部構造、組成、腐食環境に敏感である。

参考文献 corrosion handbook(ed. by H. H. Uhlig)。(神岡正男)

おおくましげのぶ 大隈重信 天保9・2・16佐賀藩士大隈信保の長男として生まる。維新前、将軍徳川慶喜に大政奉還の勸告をはかるなど志士として大いに活躍した。維新後は、徴士参与職・外国事務判事として政府の基礎強化に努め、明治2年大蔵大輔兼民部大輔、翌年大蔵大輔、参議、この間にポルトモン事件、京浜間鉄道創設の決定、英国東洋銀行より100万ポンド外資導入を手がけるなど鉄道創業に大きく貢献するとともに、電信の敷設や貨幣の鋳造にも力を尽くした。

また明治6年大蔵省事務総裁、参議兼大蔵卿として開業後の京浜間鉄道経営および京神間鉄道の創設に努力した。

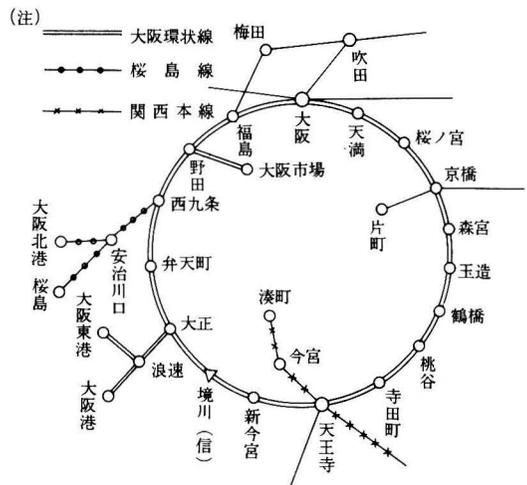
その後、立憲改進黨総理、第2次伊藤内閣・黒田内閣の外相となり、井上馨のあとをうけて条約改正交渉に当たったが、その改正案の内容は国辱的であると非難され、明治22年支洋社員来島恒喜に爆弾を投げられて片足を失い、交渉は中止となった。

明治29年進歩党主として松方内閣に入閣、同31年板垣退助らとともに憲政党内閣(隈板内閣)を組織したが党分裂のため辞職し、別に憲政本党を率いた。同43年政界を引退したが、大正3年加藤高明の立憲同志会の援助を受けて第2次内閣を組織し、第1次大戦の遂行に当たった。他方、明治15年東京専門学校を創立し、同43年の政界引退とともに、その後身である早稲田大学総長となり、もっぱら育英と文化事業等に力を尽くし、大正8年には帝国鉄道協会会長に就任した。こえて同11・1・10早稲田の自邸に病没した。(矢口正輝)

おおさかかんじょうせん 大阪環状線 東海道本線大阪駅に起り、西九条—新今宮—天王寺—鶴橋—京橋を経て大阪駅に至る大阪市の南部地域を環状する21.7kmの線と、野田・大阪市場間1.5kmおよび大正・大阪港、浪速・大阪東港に至る9.5kmの貨物支線を含み、総営業キロ32.7kmの線。線路所属は東海道線で、線路等級は甲線である。

この線のうち大阪・西九条間は、西成線(明治31・4西成鉄道株式会社の手により開通、明治39・12鉄道国有法により国鉄移管、西成線と呼称)。また大阪・天王寺間は城東線(天王寺・玉造間は明治28・5大阪鉄道株式会社によって開通、そののち関西鉄道株式会社に合併、さらに明治40・1鉄道国有法により国鉄に移管、城東線と呼称、昭和7・7玉造・大阪間を延長開業)としてそれぞれ運営されていたが、西成線西九条・関西本線天王寺間が昭和36・4完成し、西成線・城東線を通じて環状線を

形成するに至ったので、西成線および城東線の名称を廃止(西成線西九条・桜島間は桜島線となる)し、大阪—西九条—天王寺—大阪間を大阪環状線とした。



線の営業範囲は現在大阪・福島間、西九条・大正間および天王寺・大阪間は旅客運輸営業のみとなっているが、旅客は全線電車化(大部分複線高架)し環状運転を実施している。

貨物輸送については、貨物支線である福島・大阪市場間は昭和6・11大阪市場建設に伴い建設されたもので、この市場発着の貨物は、福島から吹田(操車場)に至る貨物支線経由で輸送されている。また大正—大阪港—大阪東港に至る貨物支線は、大阪環状線が完成するまでは関西本線今宮分岐の貨物支線(今宮・大阪港間昭和3・12開業、浪速・大阪東港間昭和31・5開業)であったが、西九条・天王寺間の工事に伴い大正分岐に線路改良を行なったもので、この臨港地帯発着の貨物は、その数量も多く関西本線平野—放出一吹田(城東貨物線)等の輸送ルートによっている。

この環状線が完成するまでは、大阪市の南部地区と西部西成地区方面は安治川によって東西に2分され、都市交通の糸路上もきわめて不便であったが、環状線の完成により市内交通の利便は著しく増進した。(高橋昌保)

おおたせん 大田線 島根県飯石郡赤来町から島根県大田市に至る国鉄自動車路線であって、所管する出雲自動車営業所は島根県出雲市にある。

- 1 区間・キロ程および沿革
- 大田本線
- 赤名～石見大田 42.1 km
- 昭10・9・28 開業
- 君谷別府～蘆谷 5.6
- 昭32・2・15
- 三瓶線
- 粕淵～三瓶温泉 9.7
- 昭29・10・21
- 三瓶温泉～石見川合 15.7
- 昭32・6・20
- 本路線は昭和38・4・1雲芸線から分離した。

2 営業範囲
赤名・石見大田間は、旅客および手小荷物と貨物の取扱いを、その他の区間においては旅客および手小荷物の取扱いをしてい

